The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大阪大学低温センター 50周年記念誌　あとがき/裏表紙
Author(s)	井澤, 公一
Citation	大阪大学低温センター 50周年記念誌. 2025
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102136
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

あとがき

1971年に発足した低温センターは，半世紀という長い歴史を歩んできました．20周年記念誌 『低温の歩跡』の刊行以降，液体ヘリウムの使用量は飛躍的に増加し，それに伴い，安定供給を担う低温センターの役割はますます重要性を増していきました．そうした中，2012年頃からヘリウム価格の高騰が始まり，ヘリウムの入手が困難となる，いわゆる「ヘリウム危機」に幾度も直面することとなります．さらに，こうした状況に追い打ちをかけるように，新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の事態に見舞われるなど，低温研究の継続を脅かす深刻な問題が相次ぎました．加えて，2024年に低温センターがコアファシリティ機構・低温科学支援部門へと改組されるなど，本学における低温研究を取り巻く環境は劇的に変化しています．

本記念誌では，こうした変遷を踏まえ，これまでの半世紀を振り返るとともに，今後の活動のさらなる発展に向けて，低温センターおよびそれに関わる研究活動のあり方を改めて見つめ直す機会となれば，との思いから，低温センター関係者に過去・現在・未来それぞれの視点からご寄稿いただきました．

今回，半世紀という大きな節目にあたる記念誌の編集を通じて，低温センターに関わってこられた多くの方々のご尽力とご貢献に触れ，その歴史の重さを改めて実感いたしました．特に，センター関係者からご寄稿いただいた文章を拝読し，その軌跡に込められた情熱や思いに深く感銘を受けました．各原稿からは，低温センターに関わる輝かしい研究の成果はもとより，幾多の困難を乗り越えてきた努力の軌跡が色濃く感じられ，これまでの歩みの大切さを改めて実感する機会となりました．一方で，限られた資源であるヘリウムを効率的に利用するとともに，持続可能な研究環境の構築にも貢献する「ヘリウムリサイクル事業」など，将来を見据えた新たな取り組みも積極的に進められており，その姿勢に大きな期待と心強さを感じました．

低温センターは，単なる液体ヘリウム供給機関にとどまらず，研究者を支え，共に歩むことで，数々の優れた研究成果に貢献してきたという，確かな歴史と伝統を有しています．本記念誌を通して，その重要性がいっそう高まっていること，そして今後も革新的な研究を支える環境づくりにおいて，重要な役割を果たしていく存在であることが，改めて明らかになったように思います．今後のさらなる発展に，心より期待を寄せる次第です．

最後に，これまでの50年の歩みを支えてくださったすべての関係者の皆様，そして本誌にご寄稿いただいた皆様に，心より感謝申し上げます．また，本誌の編集にあたっては，竹内徹也先生に多大なるご尽力をいただきましたことを，あわせて深く御礼申し上げます．

本記念誌が，次の半世紀に向けた歩みに，ささやかながら貢献できますことを願っております．

低温センターだより編集委員長
基礎工学研究科 教授
井澤　公一

大阪大学
The University of Osaka